



予防接種をしましょう！

動物病院は病気を治療するだけでなく、病気になる前の早期発見、早期予防のために日々診療を行っています。
今回はそんな病気にさせない・病気を作らない「予防」医療の軸となる**予防接種(ワクチン)**についてのお話です。
新型コロナウイルスの発生により、「ワクチン」の存在がより身近なものとなった昨今、わんちゃんねこちゃんの**ワクチン**についても改めて飼い主様にご紹介致します。



<ワクチン接種はなぜ必要？>

ワクチンとは、病原性を弱める・無力化した病原体を体内へ接種することで、その病原体に対する**免疫を獲得**させるものをさします。感染症に対する免疫を獲得することによって、病原体からの感染を防いだり、感染してしまったとしても**重症化させない**ようにしてくれます。



<何を予防できる？>

わんちゃんやねこちゃんでは重篤な症状を起こしうる感染症として、数種類のウイルス感染や細菌感染が存在します。症状はくしゃみや下痢などから、激しい嘔吐、呼吸困難を引き起こすものまで様々です。わんちゃんにおいては**犬ジステンパー**、**犬パルボウイルス**、**犬伝染性肝炎**、ねこちゃんでは**猫パルボウイルス**、**猫ヘルペス**、**猫カリシウイルス**などが代表的なものになります。これらの感染症に対する免疫を獲得するために必要となるのが**混合ワクチン**です。予防できる病気の種類によって**混合ワクチンの種類は異なり**、含まれる種類によって「**～種混合ワクチン**」とよばれます。

犬

犬ジステンパー

犬パルボウイルス

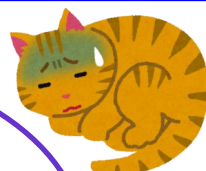
犬パラインフルエンザ

犬伝染性肝炎

犬コロナウイルス

犬伝染性喉頭気管炎

レフトスピラ感染症



猫

猫汎白血球減少症

猫ウイルス性鼻気管炎

猫カリシウイルス感染症

猫クラミジア感染症

猫白血病ウイルス感染症

<ワクチンの効果はいつまで続く？>

子犬や子猫は生まれてからしばらくは母親から譲り受けられる免疫により感染症から守られています。しかし、この免疫は**持続するものではなく**、徐々に免疫力が低下していくため感染の危険が高まっていきます。
大人になってワクチンを打つ時も同様に、一度打ったからといって効果が**永久に持続するわけではありません**。定期的な接種を心がけましょう。



注意

<狂犬病について>

重要!



現在日本では狂犬病の発生が50年以上(1957年以降)ありませんが、**海外では依然として感染の報告がある人と動物が感染する病気(人獣共通感染症)**です。感染が確認された場合、致死率100%の恐ろしい病気です。この病気を蔓延させないために、わんちゃんは狂犬病予防ワクチンの接種が義務付けられています。愛犬の健康を守るために、万が一にも発生させないために予防を徹底していきましょう。

<さいごに>

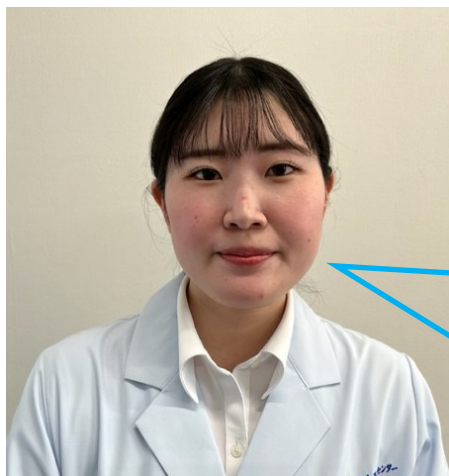


まとめ

感染症を予防することは予防接種したわんちゃんねこちゃんの健康を守るだけでなく、周りにいる子たちの健康を守ることに繋がっていきます。ノミやダニ、フィラリアといった寄生虫の予防と合わせて積極的に行っていきましょう。ワクチンの種類や接種のタイミングなど、わからないことがあれば獣医師へご相談下さい。



★新人獣医師の紹介★



こんにちは!

こうだつ しおり

静岡県出身、鹿児島大学卒の向達汐美です。

まだ右も左もわからない若輩者ですが、一日でも早く戦力となれるよう精一杯努力してまいりますので、皆様どうぞよろしくお願い致します。

